
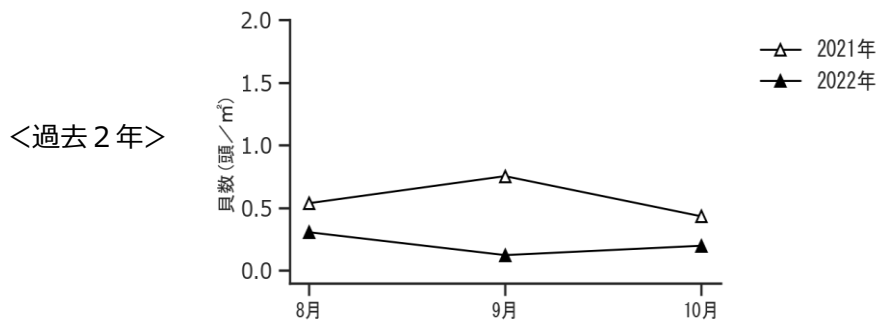
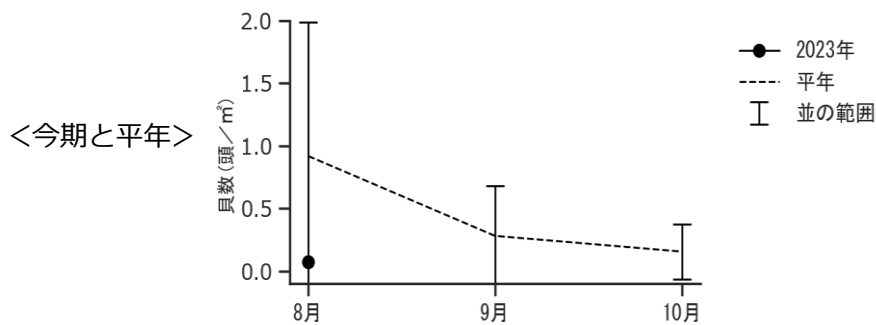


作物	水稻（2期）	地域	八重山群島
病害虫名	① スクミリンゴガイ		
調査結果	8月の発生量（平年比）	並	
予報	8月からの増減傾向	↘	
	9月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）	

調査結果


貝数の推移



・発生ほ場率50.0%（平年：60.4%）

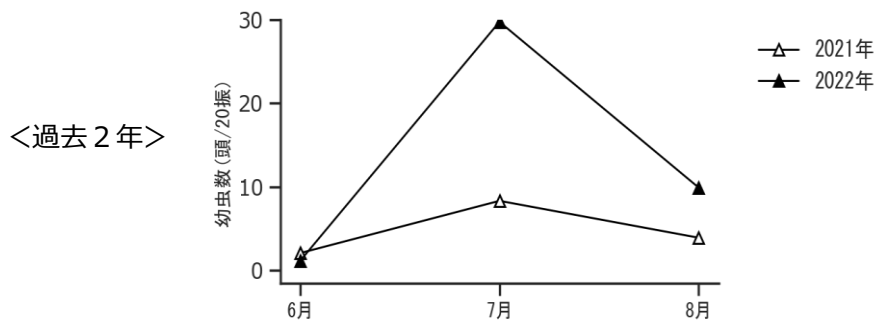
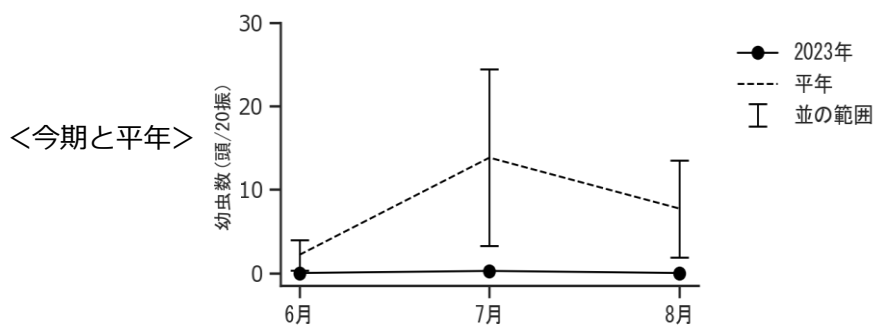
防除のポイント

- ・畦畔および用排水路周辺の雑草を除去し、産卵場所を作らない。
- ・取水口に侵入防止網（目合6~10mm程度）を設置し、用排水路からの侵入を防ぐ。
- ・貝や卵塊は見つけ次第捕殺する。なお、捕殺時はゴム手袋を着用する。

作物	さとうきび		地域	八重山群島
病害虫名	バッタ類			
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	やや少		
予報	8 月からの増減傾向	—		
	9 月の発生量 (平年比)	—		
予報の根拠				

調査結果

幼虫数の推移




・発生ほ場率0% (平年 : 86.1%)

防除のポイント

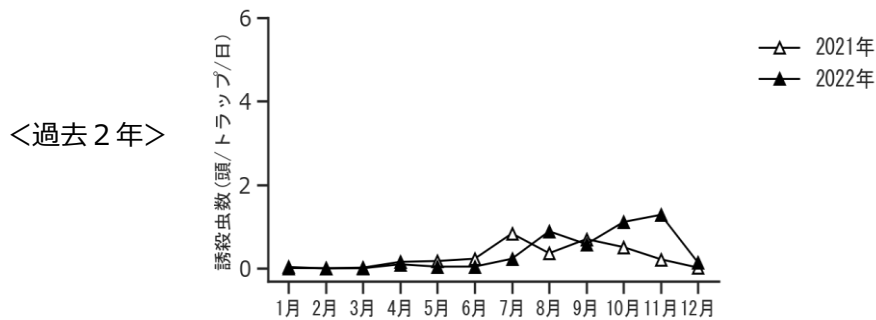
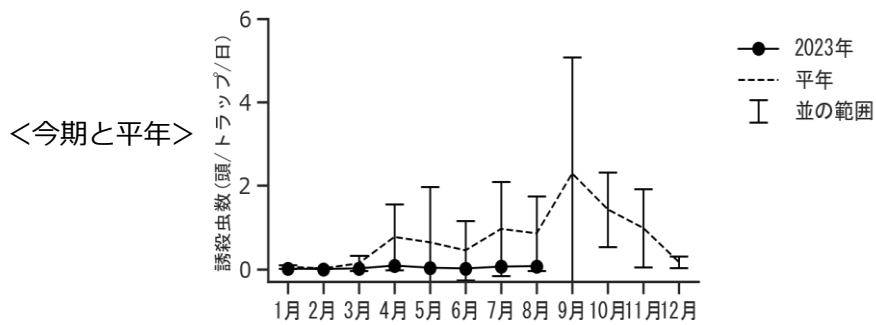
- ・発生源となるほ場及び周辺の除草を徹底する。
- ・成虫防除を実施する場合には、活動の鈍い早朝に一斉防除を行うと効果的である。



作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ		
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	8 月からの増減傾向	↗	
	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

トラップ当たり誘殺虫数の推移




・発生施設率80.0% (平年 : 94.0%)

防除のポイント

- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 収穫期に発生の多かった施設では、せん定終了後に薬剤による防除を行う。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

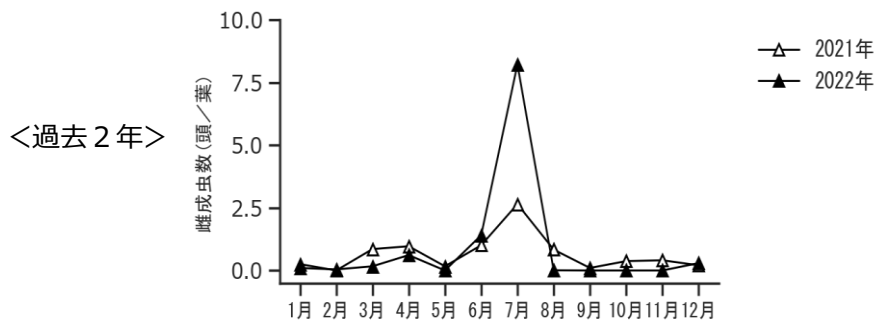
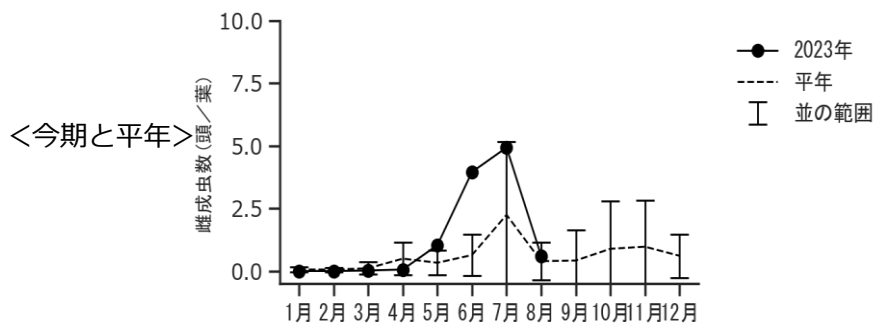


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー		地域	八重山群島
病害虫名	① ハダニ類			
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	並		
予報	8 月からの増減傾向	→		
	9 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ
- ・発生施設率40.0% (平年：34.0%)

防除のポイント


- ・収穫時、発生が多くみられた施設では早期発見・防除を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

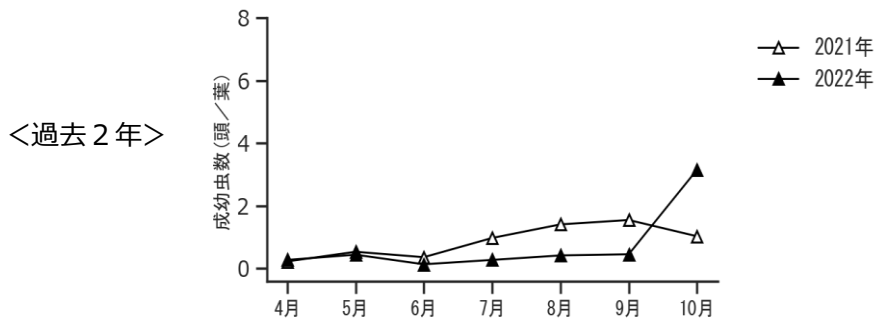
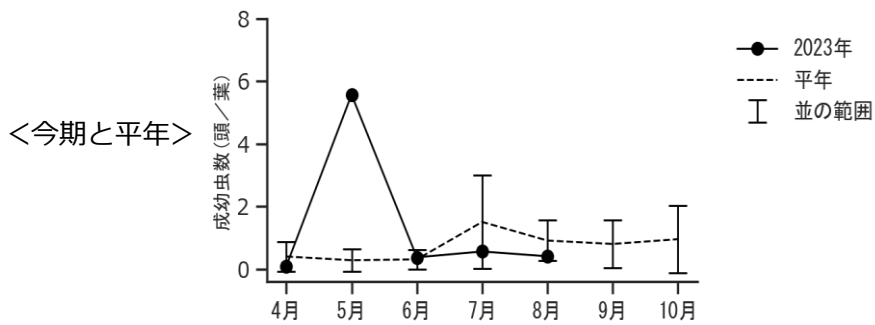


マンゴーツメハダニ

作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	① フタテンミドリヒメヨコバイ		
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	並	 成虫
予報	8 月からの増減傾向	→	
	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

成幼虫数の推移



・発生ほ場率100% (平年 : 85.7%)

防除のポイント

・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。

